

## 2017 年度事業報告

### I. 一般概況

#### 1. 植物性たん白の生産、出荷・自社使用量

当協会の調査によれば、2017 年の植物性たん白の国内生産量は 45,694 トン（うち、大豆系が 38,559 トン、小麦系が 7,135 トン）で、対前年比 99.7%であった。

また、同年の植物性たん白の出荷・自社使用量は 60,857 トンで、対前年比 100.9%であった。

表－1 植物性たん白の生産、出荷・自社使用量の推移

単位：トン、%

年次	国内生産量			出荷・自社使用量		
	計	大豆たん白	小麦たん白	計	大豆たん白	小麦たん白
2013年	43,786	36,499	7,287	55,880	36,736	19,143
2014	44,352	36,968	7,384	57,717	37,329	20,388
2015	44,863	37,122	7,741	59,034	37,817	21,218
2016	45,814	38,330	7,484	60,337	39,347	20,991
2017 (対前年比)	45,694 99.7	38,559 100.6	7,135 95.3	60,857 100.9	39,402 100.1	21,456 102.2

資料： (一社)日本植物蛋白食品協会調べ

- 注：
1. 「国内生産量」は国内自社工場で生産した総量でOEMや受託生産も含む。海外自社工場の生産量は含まない。
  2. 「出荷量」は国内向けに出荷したもののだけでなく輸出したものも含む。「自社使用量」は最終製品製造のために自社で使用する原料の量である。
  3. 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

#### 2. 植物性たん白の JAS 格付検査依頼数量

(一財)日本穀物検定協会の取りまとめによれば、2017 年の植物性たん白の JAS 格付依頼数量は 30,095 トン（うち、乾燥品が 28,654 トン、ペースト状が 1,318 トン、冷凍品が 123 トン）で、対前年比 91.6%であった。

表－２ 植物性たん白の格付検査依頼数量の推移

単位：トン、%

年次	計	乾燥品			ペースト状	冷凍品
		計	粉末状	粒状		
2013年	35,594	33,463	14,147	19,317	1,960	171
2014	33,184	31,377	11,048	20,329	1,684	122
2015	32,759	30,893	10,628	20,266	1,743	122
2016	32,852	31,243	10,334	20,909	1,525	84
2017 (対前年比)	30,095 91.6	28,654 91.7	7,324 70.9	21,331 102.0	1,318 86.4	123 146.1

資料：（一財）日本穀物検定協会資料

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

## 3. 植物性たん白の輸入量

財務省「貿易統計」によれば、2017年の植物性たん白の輸入数量は49,873トン（うち、大豆系が27,746トン、小麦系が22,127トン）で対前年比106.0%であった。

表－３ 植物性たん白の輸入量の推移

単位：トン、%

年次	計	小麦たん白	大豆たん白		
			計	たん白含有 90%未満	たん白含有 90%以上
2013年	43,323	19,982	23,341	6,622	16,719
2014	44,348	19,737	24,611	7,717	16,895
2015	44,456	19,796	24,661	7,555	17,106
2016	47,028	20,501	26,528	8,983	17,544
2017 (対前年比)	49,873 106.0	22,127 107.9	27,746 104.6	8,435 93.9	19,312 110.1

資料：財務省「貿易統計」

注：1. 各区分の現在の品目分類番号は以下のとおりである。

(1)小麦たん白：1109.00-000

(2)大豆たん白(たん白含有率90%未満)

(2)-①たん白含有率80%以上、小売容器入り：2106.10-221

(2)-②その他：2106.10-222

(3)大豆たん白(たん白含有率90%以上)：3504.00-021

2. 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

## II. 各種事業等の実施状況

### 1. 植物性たん白の消費の増進、普及啓発に関する事業（調査、資料収集、展示会）

#### （1）パンフレット等の作成・更新

- ・ 昨年度に引き続き、植物性たん白のパンフレットの統計記載ページを更新するとともに、対外的なプレゼンテーション用資料を整備した。

#### （2）試供品等の配布

- ・ 昨年度に引き続き、各種イベント会場に加えて、食品関係事業者等からの要望に応じて、植物性たん白のパンフレット、試供品、レシピ集等の配布を行った。

#### （3）広報

- ・ 食品関係の業界紙誌記者との懇談会（5月22日）を開催するとともに、関係各紙誌に協会広告及び会長年頭所感を掲載した。また、報道・調査機関からの取材調査等にも対応した。
- ・ 協会ホームページ上の各種統計データ（統計の表記を含む）、法人情報等の更新・見直しを行うとともに、食品関係事業者、一般消費者等からの各種問合せにも対応した。

#### （4）外部主催の事業・催し等への参画

- ・ (株)食品化学新聞社主催の ifia JAPAN 2017（国際食品素材/添加物展・会議、5月24日～26日）に協賛・参加し、日本医療栄養センターの井上正子所長に「植物性たん白の栄養・生理機能」、不二製油(株)の高松清治氏に「スポーツ栄養と植物性たん白 ～健康長寿に向けた筋肉メンテナンスのすすめ～」についてご講演いただくとともに、植物性たん白のパンフレット、試供品及びレシピ集を配布した。
- ・ 第64回日本栄養改善学会学術総会（9月13日～15日）に参加し、日本医療栄養センター・井上正子所長の研究成果「植物性たん白の普及活動に関する研究」を発表いただくとともに、植物性たん白のパンフレット、試供品及びレシピ集を配布した。
- ・ 日本食糧新聞社主催のファベックス2017（惣菜デリカ・弁当・中食・外食・給食・配食業務用専門展）、(一社)日本食品機械工業会主催のFOOMA JAPAN 2017（国際食品工業展）、農林水産省及び(公財)日本農林漁業振興会主催の農林水産祭・実りのフェスティバルをはじめ、各種食品関係イベント等に後援・協力・参加した。

### 2. 植物性たん白食品の規格及び技術に関する事業（調査、資料収集）

#### （1）JAS 規格

- ・ 農林水産省の新たな JAS 制度説明会、(一社)日本農林規格協会の連絡協議会等に参加し、JAS 規格とその運用に関する情報収集、意見交換等を行った。
- ・ 消費者庁等の加工食品の原料原産地表示制度についての説明会に参加するとともに、消費者庁の「遺伝子組換え表示制度に関する検討会」の傍聴を通じて、関連情報の収集に努めた。
- ・ (一財)日本穀物検定協会主催の JAS 品質管理責任者講習会に講師を派遣し、「植物性たん白とその品質管理等について」の講義を行うとともに、同協会 JAS 公平性委員会に参加した。
- ・ 大豆たん白の窒素-たんぱく質換算係数に関して、換算係数ワーキング・グループを設置した。また、JAS 規格、食品表示基準、日本食品標準成分表等に加え、諸外国・国際機関の規格・基準における記載内容・経緯等についての情報収集を

行うとともに、当業界にとっての問題意識、要望等について文部科学省、消費者庁等への説明・要請を行った。

## (2) 技術の開発・改善

- ・ 技術部会において訪問先、日程等を検討し、技術研修会（10月11日～12日）を開催した。本年度は広島県内を訪問し、広島県食品工業技術センター、福留ハム(株)及びオタフクソース(株)において事業・業務等について説明を受け、施設見学、意見交換等を実施した。
- ・ UBM メディア（株）主催の食品開発展 2017、農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門の研究成果展示会 2017 等の技術開発・改善に関するイベント等に参加した。

## 3. 植物性たん白食品の内外の情報収集及び調査研究に関する事業（調査、資料収集）

### (1) 情報収集

- ・ 植物性たん白及び関連食品の原料、加工、利用等に関する内外の情報収集を行うとともに、植物性たん白の生産出荷統計、JAS 格付検査依頼実績及び輸入実績のデータを整備した。
- ・ 農林水産省をはじめ、内閣官房、公正取引委員会、財務省、経済産業省等の行政機関による食品に関係する各種法令・制度・事業、国際関係についての説明会等への出席を通じて、関連情報の収集に努めた。
- ・ 日本臨床・公衆栄養研究会の講演会に出席したほか、第 64 回日本栄養改善学会学術総会、農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門の研究成果展示会 2017 等を通じて、研究機関・学会における関連情報の収集に努めた。
- ・ （一財）食品産業センターの企業・団体連絡協議会等に出席し、食品産業政策の展開方向に関する農林水産省からの説明、食品産業をめぐる諸問題に関する同センターからの説明等を通じて、関連情報の収集に努めた。  
また、（一社）日本農林規格協会、食品関連産業国際標準システム・食品トレーサビリティ協議会等のセミナーに出席し、関連情報の収集に努めた。
- ・ アメリカ大豆輸出協会主催の 2017 アメリカ大豆バイヤーズ・アウトルック・コンファレンス及び Soy Canada 主催のカナダ食品大豆セミナーに参加し、植物性たん白の需要・原料事情に関する情報収集に努めた。

### (2) 調査研究

- ・ 日本医療栄養センターが行う植物性たん白の普及活動に関する研究（第 64 回日本栄養改善学会学術総会で発表）に対して助成した。

### (3) 現地研究会

- ・ 運営委員会において訪問先、日程等を検討し、現地研究会（10月26日～28日）を開催した。本年度は徳島・高知県内を訪問し、大塚製薬(株)、馬路村農協、(株)アオイコーポレーション及び(有)横山製麩所において事業・業務等について説明を受け、施設見学、意見交換等を実施した。

## 4. セミナーの開催（研修、セミナー）

- ・ 技術部会においてテーマ、日程等を検討し、技術セミナー（2月20日）を開催した。本年度も製粉会館において、農林水産省食品製造課の杉田敬一課長補佐に「食品の国際認証と食品企業の対応」、NPO 法人日本ハラール協会の伊藤健理事に「ハラール認証とは何か～認証に期待する効果とは～」についてご講演いただくとともに、意見交換、懇親等を実施した。

## 5. その他

### (1) 協会運営

- ・ 関係法令、定款等に則り、各種内部会議等を円滑かつ的確に開催・実施した。

### (2) その他

- ・ 会員はもとより、賛助会員に対しても有用な情報の提供に努めた。